

## 子どもと言語発達の特徴に関する研究(1)

小久保 美子

A Study of the Characteristics of Child Language Development:  
Focus on *Experiencing the Language Arts* (1948)

Yoshiko KOKUBO

本研究は、*Experiencing the Language Arts* (1948) に収められた「子どもと言語発達の特徴」の一覧表の中から、幼児の部分を取り出して訳出したものである。

### 1. はじめに

*Experiencing the Language Arts* (1948) は、熟練教師、有能な司書、創造力に富んだ指導主事（フロリダの11の郡から来ている）、州部局及び州立大学の教員、州以外の顧問（フロリダ州及び他の7つの州におけるカリキュラム作成の経験者）らの手によって編まれたものであり、幼稚園から12学年までの子どもたちの言語教育を対象としている。本書では、「国語は学校全体のカリキュラムと関連している」という言語教育観に立脚し、子どもの言語発達を促す学校での種々の経験、それに基づく单元などを挙げている。

この考え方は、時代、国こそ異なれ、「すべての教科で言語活動の充実を」を改善の第一の視点においたわが国の今回の学習指導要領の趣旨とも合致しており、今後のわが国の国語教育の実践展開に一定の貢献をなしうるものと思われる。

本研究の対象箇所は、※のところである。（以下、本書の目次から各章のタイトルを抜粋）

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1. 序文             | 12歳～15歳      |
| 2. 謝辞             | 15歳～18歳      |
| 3. 学校と生活における国語の位置 | 6. 前置き       |
| 4. 経営者の責任         | 7. 話すこと・聞くこと |
| 5. 子どもと言語発達の特徴    | 8. 書くこと      |
| ※ 4歳～6歳           | 9. 読むこと      |
| 6歳～9歳             | 10. 单元例      |
| 9歳～12歳            | 11. 参考文献一覧   |

子どもと言語発達の特徴（4歳～6歳）

身体的,精神的,情緒的 特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会と なる学校での経験	教師への示唆
<p>1. とても活動的である；たびたび,短い休息の時間を要求する；一晩あたり11～12時間の睡眠と1～2時間の昼寝を必要とする</p>	<p>1. とてもよくしゃべる；言葉を使うこと,言葉を使ってみようとする,言葉で遊ぶことを好む；新しい言葉を好み,言い回しにとってもよく気付く；同じ表現の繰り返しを多く使う</p>	<p>1. 一人または少人数の子どもたちで,興味を中心に動くこと；イーゼルで描いたり,粘土でこしらえたり,ブロックで組み立てたりしながら,たくさんの会話を続ける</p>	<p>1. 教師は,一人または少人数の子どもたちのグループに興味の中心を与え,豊富な活動や頻繁な変化,活動後のくつろぎを与えることで,必要を最善に満たす。</p>
<p>2. 発達の速度が大きく異なる；通常,女児の方が男児より成長が1年早めである</p>	<p>2. 一人一人の子どもに参加の機会がある小グループで話すことに,より自由さを感じる；聞き手が集中しているとき,より自由に話す</p>	<p>2. おもちゃや機械装置を操作すること,それにより新しい言葉や既有語彙の中の言葉の新しい意味を獲得する；考えを共有する；部屋におもちゃの電話があれば,ほどよい長さの時間,会話を続ける</p>	<p>2. 教師は,子どもたちが自分のおもちゃや他の人のおもちゃについて自由に話したり礼儀正しく話したりするのを刺激するよう,学校で備えられたおもちゃや子どもたちが家からもってきたおもちゃを使う。</p>
<p>3. 規則的な食事,睡眠,排泄の基本的習慣；中には,用便したり飲み物を飲んだりする習慣がつく子どももいる</p>	<p>3. 文で話したり,簡単な問いに答えたり,終わった出来事を語ったり,身近な物語を反復したりすることができる；しかしながら,すべての子どもが自分自身を確実に表現するために言葉を自由にあやつれるとは限らない</p>	<p>3. 指示を与える教師に時折,耳を傾けること,それらは,子どもたちの安全と集団の快適さのために必要である</p>	<p>3. 機会を与える際,教師は集団生活のしかたを進展させるよう子どもたちを導くことが大切である。トイレやランチルーム,運動場,娯楽設備など校舎のいろいろな所への行き方について指示を聞くのは,よい言語訓練となる。指示の一貫性及び責任をもって指示を守ろうとする子どもたちの一貫性は,よい指導にとって不可欠である。</p>

子どもと言語発達の特徴に関する研究（1）

身体的,精神的,情緒的 特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会と なる学校での経験	教師への示唆
4. 入学することで、昔のある種の緊張的な行動を再び始めるかもしれない；親指をしゃぶる、つめをかむ、ひざ頭をぶつける；時に、トイレの失敗	4. 非常に表情豊かである；新しい言葉や言葉遣いを意味のあるかたちで使いながら、自発的に劇をする	4. 社会的習慣をまねること、ティーパーティを開くこと、お父さんやお母さんの日々の仕事、郵便集配人や新聞配達少年のような地域の人々の仕事；これらの活動に伴う会話	4. そのような活動は、教師に子どもたちを理解するよい機会を与えたり、年齢に合った子どもに必要なまとまった活動を与えたりする。
5. 脚や腕、胴体をコントロールする重要な筋肉が急速に発達する時期である	5. お母さんやお父さんの簡単な指示を理解し、行う	5. 庭を作ること、バスターを作ること、ゼリーを作ること、メスに卵を抱かせ、孵化するのを観察すること、カエルの卵を捕ること、おたまじゃくしがカエルに変化するのを観察すること、蜂が蜂蜜をつくるのを観察すること、缶詰にすること、敷物を編むことなどの実践的な活動を通して、自分の語彙にたくさんの新しい言葉を加えること、また十分に目的的な話し合いをすること	5. それら生活上の事物に対する子どもたちの言語的反応は、理解と表現の成熟度を示す。したがって、それらの事物が教室に持ち込まれることは大変重要である。なぜなら、子どもたちがそれらについて自然に話すからである。子どもたちは、それらの世話のしかたやそれらに関する自分たち自身の責任もった引き受け方を計画する際、分担すべきである。
6. 5歳の頃は、たいてい明確な右利きか左利きである	6. 鉛筆、クレヨン、金づちを使ったり、絵を指し示したりするときに、利き手が現れる	6. 多様な目的でスクラップブックを作ること；本への興味を増す	6. 教師が利き手を変えようとするならば、子どもたちは入学後、どもるようになってしまふかもしれない。教師も親も、子どもの自然な利き手が確立するまで、どちらの手を使ってもよいよう勧めるのがよい。

身体的,精神的,情緒的 特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会と なる学校での経験	教師への示唆
7. 依然として, 心は急速に発達し続け, 脈拍数は減少し続ける	7. 5歳か5歳半における言語使用の開始の際, 情緒的な乱れを現すかもしれない(正しい言葉を言うことができない; コミュニケーションの形式としてたびたび笑う)	7. 情緒的な乱れを避けるための集団生活における言葉の使い方を学ぶこと	7. この頃は, 心のもち方が成長するので, 子どもは不健全な状態に影響を受けやすい。疲労やいらだちは, 防ぐべきである。子どもは, 適切な休息が与えられないと緊張の精神状態が続くことになる。
8. 大人よりも子どもの体に適した小さな胃と腸をもっている(胃の内側はデリケートであり, 消化のよいジュースが完全に機能的であるとはいえない)	8. 個人的で身体的な必要に関し, 遠慮なく言う	8. 10時のおやつの間, 多くを話さなくてはならない責任を分け合うこと, 例えば, 教師, あるいは子どもたちの一人が話す物語に耳を傾けるなど	8. 10時のおやつは身体的に必要であり, それは礼儀や会話の習慣を打ち立てるための社会的な場を提供する。
9. 毒素や細菌によって引き起こされる感染性の病気に大いに影響を受けやすい	9. 頻繁にかかる病気によって, 話すことの発達が妨げられる	9. 音楽を表現的な方法で自発的に解釈すること; 学校での身体検査に結びついた質問をしたり, それに答えたりする	9. 学校がこの年齢の子どもたちに, 横になったり休息したりする機会を与えること, 内科医による身体の健康診断を行うことは不可欠である。この経験は, 質問に答えたり身体的な支援を求めたりするときに, 言葉を用いる機会となる。
10. しばしば歯の骨からの影響を受ける; 乳歯のゆるみ; 新しい歯の空間を形成するために成長するあご	10. 表現のしかたよりも子どもが表現したい考えに注意を向けるようにしたときに, より自由に話す	10. 一時的な身体の状態に注意を向けることなしに, 話し合いの時間を共有すること	10. それぞれの子どもが自分の考えを自由に, しかし正しい発音の訓練に注意を向けながら表現するのを促すような豊富で刺激的な経験を与える。

子どもと言語発達の特徴に関する研究（1）

身体的,精神的,情緒的 特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会と なる学校での経験	教師への示唆
<p>11. 完全に発達した, 対等の眼をもっていない; 大人の基準で判断されるときの子どものたちは, 通常遠視である。</p>	<p>11. 読むときに, 必要に応じて左から右へ眼球を動かすという確立した文化的パターンを獲得していない</p>	<p>11. 絵本を見て, 初めから終わりまでの言葉を使って楽しみを表現すること</p>	<p>11. 子どもたちの眼や神経システムは, 無理に長時間, 作業に接近することで傷つけられるかもしれない。読むことのレディネスは, 子どもたちの身近な経験に関連した絵本の経験を通して促進される。</p>
<p>12. とても多才である; 自分のできることを示しながら多くのことを自発的に行う</p>	<p>12. 簡単な物語に耳を傾け, 自分の経験を話すことを好む; 聞いたことがあったり, 自分たちで作り上げたりした物語やなぞの両方; 言葉に著しい興味を示す</p>	<p>12. マザーグースの詩や好きな物語を聞くこと, それらを繰り返すこと</p>	<p>12. マザーグースの詩は, すべての子どもたちの文化的遺産の一つであるべきである。これらの詩を, 劇に沿って繰り返すことは, 子どもたちに言葉を超えた力を与え, 読むことに対するレディネスを導く。</p>
<p>13. 正確な聴覚もっている; 音に興味を示す, しかし, 真の区別はしばしば未発達である</p>	<p>13. 音の速さや音色の区別を楽しむ; 自発的にそれらに注意する, それらを産み出すことに興味をもつ; リズミカルにそれらに関連させる</p>	<p>13. 歌うことに耳を傾け, 参加すること; 記述的な方法で自発的に音楽を解釈する</p>	<p>13. 子どもたちの能力に適した音楽が, 与えられるべきである。いつ活動を止めるかを知るための信号に耳を傾けることは重要である。音楽的な調子や柔らかな話しことば, 子どもたちの注意を引くような何らかの楽しい方法が用いられるとよい。</p>

身体的,精神的,情緒的 特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会と なる学校での経験	教師への示唆
<p>14. 2歳から5歳までの間は、最もたやすくリズムを獲得する</p>	<p>14. 言葉で「遊ぶ」、音やリズムがおもしろい言葉や子どもたちが話す「物語」で「遊ぶ」</p>	<p>14. 物語を読み聞かせてもらったり語ってもらったりして楽しむこと</p>	<p>14. テーブルの上には、いろいろな成熟度や興味を満たす本を置くべきである、イラストは、本への愛着や読みたいという願いを刺激するようなカラフルで単純なものがよい。テーブルの上の本は、たびたび変えられるべきである。</p>
<p>15. 運動的な劇や操作的な劇の両方を楽しむ；想像的な劇を楽しむ</p>	<p>15. 4歳児は、大変想像的である；大人の基準では、偽りであるとみなされるような大げさな作り話を話す；5歳までには事実に基づき、正確になり、6歳でも続く</p>	<p>15. 新しい経験に向けて近場への探検的な移動をすること、また、観察したものについて質問することを通して語彙を増やしたり事実と空想とを区別したりすること</p>	<p>15. 学校の建物や校庭の役割を知ったり、子どもたちが安心感をもっていられるよう支援する校長先生や他の大人たちに接したりすることを目的とした探検的な移動。</p>
<p>16. ブロックの組み立てや平均運動やキャッチボールを好む、絵や粘土の塑像、簡単な建設に興味をもつ</p>	<p>16. もし選択が与えられるならば、ラジオを聴くよりも戸外で遊ぶことを好む；もし映画に参加させられれば、たいいてい落ち着かなくなる；戦闘や発砲によって明らかに影響を受けたり、悲しい場面に涙を流したりする；音楽や動物の映画を好む</p>	<p>16. うさぎや子ネコ、あるいは他のペットなどを世話するような学校の状況の中で一緒に考えること；可能ならば建設を続行すること、また、真剣な話し合いに従事すること</p>	<p>16. ペットを学校に持ってくることは、教師と子どもの双方に問題を引き起こす、もし適切な家作りや世話がなされるならばもってきててもよい。それは、豊富な言語経験を保障する。</p>

子どもと言語発達の特徴に関する研究（１）

身体的,精神的,情緒的 特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会と なる学校での経験	教師への示唆
<p>17. おもちゃや人形や砂, もちろん, 園庭の遊び道具や子ども用自動車で遊ぶことを楽しむ;しばしば, それらのおもちゃから離れたがる, そしてときどき, 驚くほど長い時間, 問題に関わる;注意力が続かないのもこの年齢の特徴である</p>	<p>17. 言語能力は大きく異なっている。女兒は男児よりも進んでいる;興味や注意の広さ, 運動技能の違いを通してレディネスの違いが顕になる—これらはすべて, 能力を発達させようとするときの度合いに影響を及ぼす</p>	<p>17. 挨拶をしたりパーティを開いたりするバレンタインデーやクリスマスのような特別の日について観察すること</p>	<p>17. 挨拶カードの作成やパーティの開催は, 子どもたちが書くことの必要を感じたり, 書くことのレディネスを発達させたりするための助けとなる。しかしながら, 教師は, 子どもたちがこの年齢の段階で自らメッセージを書くだろうと期待してはならない。というのは, 指や手をコントロールする細い筋肉がまだ発達していないからである。</p>
<p>18. 自分自身や家族や同年齢の友だちに関心をもつ;性差を明らかに意識しないで, 異なる性の友だちと遊ぶ;しばしば想像上の遊び友だちをもっている</p>	<p>18. 子どもたちの話で, 中心的で大きな割合を示しているのは, 自分自身についてである</p>	<p>18. 子どもたちが知っている詩や聞いたことのある物語を劇化すること;それによって, 自己意識に打ち勝ったり, 語彙を増大させたりする助けになること</p>	<p>18. 自由遊び, それは, 子どもたちが自発性を行使したり, 体全体を使って動いたりするのを可能にし, 組織的なゲームを行うよりは, この年齢段階での必要をより満たす。</p>
<p>19. 自己中心的で, 自分で決めたいという願望がますます増大する様子を見せる;適切な権利に関する感覚をもつ;つかんだり押したり泣いたりすることが少なくなり, 社会的関係が増大する;より分かち合う。</p>	<p>19. 社会的活動に興味をもつ;おしゃべりしたり大人のように振舞ったりしたがる;説明を聞くことがかなり楽しくなる;しかめつらをする—大人との一体感や顔の表情を読むスキルの方法—を好む</p>	<p>19. 多くのグループ活動に参加すること, 特に, 話すことを含む活動</p>	<p>19. 聞き手の場としては, 小さなグループを設定するのがよい。大きなグループだと, 刺激しすぎたり退屈したりするおそれがある。</p>



身体的,精神的,情緒的 特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会と なる学校での経験	教師への示唆
20. 仲間からの支持よりも, 大人からの支持に, より関心をもつ	20. 学んだ語彙を使おうとしたり, 教師によって示された発音のモデルをまねしようとする; 大人の声の正確な抑揚をまねて長い電話での会話に従事する	20. 朝, 教室に入ってきたとき, 教師と経験を分かち合うこと	20. 教師は, 子どもたちのモデルなので, 明瞭に発音し, 心地よい声をもつべきである。教師が子どもの言うことをどのように聞くか, また, 子どもたちの言うことをどう利用するかということは, 子どもが教師と話を分かち合うことを続けるかどうか, 他の人の話をどう聞くかについて学び続けるかどうかを決める際の決め手になる。
21. 小さい子どもや動物が大好きである。しばしば, 彼らに食べ物を与えたり世話をしたりしたいという欲求を示す	21. 動物の声をまねたり, こどもたちや身近な動物の写真を好んで見たりする	21. 子どもたちや動物の写真を見たり, パズルを解いたりすること	21. 写真は, 子どもたちが扱える豊かな資料である。多くの写真が教室に集められるとよい。これらは, 子どもたちが近づきやすいように, 各タイプ別に決まった場所に置かれるとよい。子どもたちは, これらの資料を使用するだけでなく, 管理も共有すべきである。



子どもと言語発達の特徴に関する研究（1）

身体的,精神的,情緒的 特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会と なる学校での経験	教師への示唆
22. 自分たちの周りの世界や人々, 物事に関し, 大きな好奇心がある	22. 知識というよりもむしろ言葉で遊ぶかのように, 「どうして」や「なぜ」という質問をする	22. 好奇心をそそられた事物について質問をする; 教室の責任において教師と協力すること	22. 教師は, 子どもの質問を奨励しなければならない。というのは, 質問が, 子どもたちが自分自身を周りの世界と識別する助けとなるからである。しかしながら, 教師は, すべてを答えなくてはならないと感じる必要はない。質問をされたときに, 子どもに観察や他の感覚を通じた経験をさせることで, 答えればよい。教室の責務というものは, 往々にして, 「～ごっこ」や劇化などよりも, 生きて働く言語を使用するよりよい機会となる。
23. 5歳児は個性を顕にし, 固定的な一面を示す	23. 平均2000以上の語彙をもっている(5歳児で)。名詞が減少し, 動詞が増加する	23. 他の人と一般的な興味や好奇心を共有すること。	23. 幼児の共有しようという試みは友情の始まりであり, 奨励すべきである。
24. 身近な事物に関して鋭いユーモア感覚をもっている	24. アルファベットの本やユーモラスな物語, 誇張した表現, 事物の働きや成長の物語などに興味を示す	24. ゲームとして笑いで人を引き付けること(笑いは幼児たちの間で移り広がる, 笑いは子どもたちの耳や目に新しいもの, あるいは劇を見て溢れた感情からもたらされる)	24. 子どもたちの緊張を和らげ, また彼らの刺激しすぎを訓戒する笑いは, 適切なときに奨励されるべきである。

身体的,精神的,情緒的 特徴	言語的特徴	言語発達を促す機会と なる学校での経験	教師への示唆
25. 自分たちの精神的理解を超えた事物の原因について考えることに、まじめでまっすぐである	25. 特に、環境の中のあらゆる事物について「なぜ」という質問に答える情報的な本を楽しむ；霊的概念を扱った本への興味の目覚めを示す	25. 花や小鳥の鳴き声、美しい音楽、波の音から気付かされる美に対する言語に反応すること	25. 教師は、これらの感覚の刺激物について子どもたちが感じたり考えたりしたことを表現するようにすることが重要である。これらの表現は、教師に、子どもの情緒的で霊的な反応に対する識見を与え、また、子どもの好奇心や不思議に思う気持ちを広げる。
26. 自分の行為、成果、服、家族の持ち物などへの誇りを示す	26. 5歳児は、往々にして、10まですらすら数える能力を見せるが、この能力は、言語的なものにすぎない	26. 力についての感覚を自分自身の中で実感しながら、他の人と一緒に作業することを学ぶこと—指示をしたり、自分となるよう他の人を説得したりする	26. 教師は、幼児が既知の経験と新しい経験との間で活動に一定の動揺を味わうのは社会的順応の方法であるということを認識するべきである。

(本書は、日本国語教育学会会長 倉澤栄吉氏より貸与されたものであり、ここに改めて感謝申し上げます。)

### おわりに

「幼児にとって、遊びこそ学びである」とは、よく聞く文言である。現在、子どもの体験不足からくる様々な問題が取りざたされている。今回の訳出を終え、改めて、言語教育の上からも、いかに「経験」が重要であるかを認識するに至った。経験の有無は、経験に関わる語彙の有無を意味する。すなわち、経験が不足するということは、語彙が不足するということなのだ。

特に印象残ったところは、24.の「ユーモア感覚」、25.の「霊的概念」であった。もしかして、子どもは本来、みなユーモア感覚・霊的感覚をもっているのかもしれない、それらが欠如している大人がいるとすれば、それは失われたということなのかもしれないという新たな気付きもあった。もし、そうであるとするなら、子どものまっすぐな気持ちに向き合うことは、保育者にとってきわめて重要である。この点については、稿を改め、論及してみたい。